



## 「森は海の恋人」～美しい森林が創り出す自然の恩恵～ 「ことばの力」トライアル

### <壺内章矢>

休日のボランティア活動と言うのに、地域の企業やスーパーの方、小学生など130名ほどの人が参加されていて、地元の方の植樹に対して意識の高いことに気づかされました。



参加された方と一緒に、交流を深めて行く中で、一つの目標を目指し、それを達成したときには、大きなやりがいを感じました。そのなかで、海洋高校生として、現在行っているアマモに関することも発信出来たので良かったです。これをきっかけに自分たちの活動に興味を持ってもらい、賛同してもらえる方が増えることに期待したいです。

### <尾田寿輝也>

今回は前回の植林活動の続きで、約300本のヒノキの苗を植える活動を通じ、やはり森と海はつながっている事を認識させられ、木が無ければ今の私たちの生活が成り立たないと改めて感じました。そして、人間の手を加えなければ森は良くならないという事を認識しました。やはり森などの環境破壊の原因の大半は人間の行いであり、破壊してしまったものを元の姿に戻すのは当たり前のことだと思いました。それには大変な労力やコストがかかってくると予想されます。しかし今回感動したのは、森を良くしようという思いから多くの地域住民の方が130人以上も集まったという事です。このことからやはり大切になってくることは、こういった活動を何年も続けなければいけないという事です。地道な作業だけれど確実に環境は良くなっていくと私は考えます。こういった様々な点を通じて私自身少しでも環境改善になるような行いを探していこうと思います。



### <高井 啓亮>

「植樹の意味って何だろう」、その意味を今回、植樹祭で探そうと思いました。植樹祭の内容としては、10月3日に私達、海洋技術コースが杭を打った場所に300本のヒノキの苗を植える作業でした。植林をする中で一番苦労したのが急な斜面での作業で、上手く体勢がとれず中々地面を掘ることができなかったことです。

今回、多くの小学生や地元企業の人達と植樹をしていく中で、私たち人間が自然を愛する心を育んでいかなければならないと感じ、植樹祭を行う意味がわかったような気がしました。

### <坪井 千明>

なぜ一般の方が植樹祭に参加するのか分からないまま作業は始まりました。植樹はヒノキの苗300本です。森林と比べると300本は少ないと思いました。しかし、参加した私達を始め、一般の方々の心にも木を植えることができたと思います。畠山さんはこう述べていました。「山などに木を植樹することも大切である。しかし一番大切なのは心に森林をつくることだ。」と、初めそれを聞いたとき意味が分かりませんでした。しかし植樹をしている内にこの活動自体が心の森林を作るということに繋がると感じました。

植樹祭をボランティアとして考えるのではなく、僕達、技術コースのために行って頂いた自然学習だと考えなければならぬと思いました。

